



広報しべちゃ3月号「ニタイ・ト通信No. 4」でお知らせしているとおり、Facebookを週2回のペースで更新しています。ニタイ・トで開催されるイベント情報などを手軽に見ることができますので、ぜひ活用してください。（高橋）

## 北海道集治監釧路分監本館 オープン

平成29年8月より閉館していた旧郷土館が、耐震改修工事を終え、4月26日より北海道集治監釧路分監本館として開館します。

今回の改修では、本来の姿である北海道集治監釧路分監本館に近づけるべく、内部の間取りを明治時代の間取りに戻し、壁や扉なども古い時期の色調へと復元しました。特に一間となった2階の大ホールは必見です。



入館を希望される方は博物館へお越しください。貴重な標茶の文化財にぜひ触れてみてください。

### くまがた

標茶近世・近代人物誌

近代日本馬術の創始者

遊佐

幸平

(中編)

標茶に生きた人々の中には、伝記のような形で記録が残され、歴史にその名を遺した方がいます。そんな人々の人生の物語をご紹介します。

(前回のあらすじ)

遊佐幸平は、1932～33年(昭和7～8年)に軍馬補充部川上支部の第12代支部長として勤務した軍人であり、陸軍騎兵隊に所属した馬術家です。

1883年(明治16年)、宮城県玉造郡鳴子村(現鳴子町)に生まれた遊佐は、1904年(明治37年)に陸軍士官学校を卒業。日露戦争へ従軍した後、馬術研究のために世界各地を巡り、馬への調査研究を深めました。1928年(昭和3年)、45歳の遊佐は第9回アマステルダムオリンピックに選手兼監督として初出場。この時遊佐はすでに日本馬術会で広く名の知られる存在でした。

1932年(昭和7年)の第10回ロサンゼルスオリンピックに、遊佐は馬術競技の日本代表監督として臨みました。その結果、西竹一陸軍中尉が大障害飛越競技で金メダルを獲得し、日本中が大きな喜びに湧きました。代表監督として金メダルをもたらした遊佐は、同年、標茶の軍馬補充部川上支部へ支部長として赴任。この時階級は陸軍大佐でしたが、高名な遊佐は標茶では遊佐閣下と呼ばれていました。(本来「閣下」は、将官と呼ばれる少将以上への敬称)

遊佐が在任中の出来事として「閑院宮軍馬補充部視察」の写真が残っています。これは皇族の閑院宮春人王が標茶に来ら

## 展示替えのお知らせ

4月23日(火)から室内バードウォッチングコーナーが春夏仕様になります。湖スペースにいた冬の鳥が、夏に見ることができる鳥へと変わります。

また、常設展示も一部展示物を変更します。ぜひご覧ください。



そうだったのかー!?

## 博物館の裏事情

ここでは博物館職員が普段どんな仕事をしているのか紹介していきます。

### 第1回 カビとの戦い

博物館では土器や動物のはく製など展示物は総じて「資料」と呼ばれ、常設展示室で公開するほか、収蔵庫という一般には公開していない場所で保管しています。博物館ではこれらの資料が未永く後世に残るように、さまざまなことから資料を守る必要があります。資料の最大の敵…それは「カビ」です。カビが発生してしまうと、変色が進み資料が著しく劣化するほか、カビの胞



温湿度計測の様子

子を人間が吸い込むことによる健康被害の問題があります。

カビはそのまま放置するとほかの資料に広がるので、いち早く発見・処理する必要があります。また、滅菌処理をした後もほかの資料とは完全に隔離して保管します。

こうしたカビの発生は事前の予防が大切です。そのため博物館では毎日3回にわたり、各部屋の温湿度をチェックするほか、年に数回資料の防虫・防カビ処理を行っています。



高温多湿は厳禁のためエアコンを設置している部屋もあります

ご紹介します。



「標茶記念誌」表紙  
遊佐が描いた馬の絵

れ、遊佐が川上支部を一望できる軍馬山の展望地へ案内した際に撮影されたものです。春人王は当時、陸軍大学卒業を控えた騎兵大尉でした。有名な馬術家である遊佐が支部長を務める標茶の川上支部を視察し、軍馬育成と馬術知識を深めたのかもしれない。標茶の軍馬補充部は、国内各地にある軍馬補充部の中でも大規模であり、多くの輻重馬(軍隊で使われた荷運び用の馬)を育成していました。そのため皇族以外にも、高級将官がよく視察に訪れています。遊佐が川上支部にいた期間は約1年でした。ただし、その後標茶との関わりがなくなつたわけではなく、1936年(昭和11年)に発行された「標茶記念誌」のために、遊佐は馬の絵を描き提供しています。

遊佐は陸軍少将となり1937年(昭和12年)に軍馬補充部本部長となりました。この時遊佐は54歳。その後予備役に編入され、1942年(昭和17年)まで満州国馬政局長として手腕を振ります。この時期は遊佐の馬術が指導法としてまとめられた時期でもありました。のちに「遊佐馬術」として刊行される馬術講義は、サラブレッドの品種誕生の話や、馬との調教に見る哲学的な信念など非常に興味深い内容が含まれています。次回、詳しく



閑院宮軍馬補充部視察  
(写真右から2人目が遊佐幸平)